

## 医療対人関係論

授業科目名	医療対人関係論	単位数 2 単位
英語標記	Theory and Practice on the Interpersonal Relationship in Medicine	
授業コード	360403	
受講人数	20 人	
担当教員	平井 啓、中西 淑美	
対象	全研究科大学院生、3 年次以上の全学部生	
開講時間等	夏期集中（8 月 10 日～8 月 13 日の 2 限～5 限：計 4 日間）	
開講場所	吹田キャンパス：生命機能研究科ナノバイオロジー棟 1 階セミナー室	
キーワード	医療、問題解決、ヘルスコミュニケーション、コンフリクト、紛争構造、メディエーション、チームアプローチ	
授業の目的	1. 医療場面での諸問題に対する解決のプロセスへの自己と他者の関わりについて理解する。 2. 紛争構造と認知フレームについて理解する。 3. コンフリクトマネジメントについて理解する。	
講義内容	授業は集中講義（4 日間、一日 3-4 コマで 15 回）でおこないます。授業の前半は、医療場面、特に終末期医療における人間の行動に関する諸問題（ストレス・対処行動・QOL・問題解決・チーム医療）について学びます。後半は、紛争場面、とりわけ医療紛争場面における諸問題に期待される役割（コンフリクトマネジメント／医療 ADR とりわけメディエーションの可能性）や当事者との関わり方（メディエーションアプローチや医療メディエーターについて）と諸問題（訴訟の限界・医療紛争の特徴等）について学びます。 1. 医療従事者と患者のストレスの問題 2. 医療従事者と患者の対処行動（コーピング）の問題 3. 患者家族の意思決定と医療従事者の支援 4. 医療における質（QOL）の評価と EBM 5. 終末期医療の諸問題（セデーション、補完代替医療等） 6. 医療場面における問題解決 7. ディスカッション 8. 裁判と ADR(裁判外紛争解決) 9. 紛争の構造と展開 10. 認知フレームと紛争交渉理論 11. コンフリクトマネジメント（メディエーションの理論と演習） 12. 医療メディエーション総論 13. 医療メディエーション演習 14. ディスカッション 15. プレゼンテーションによる試験	
教科書	特に指定しませんが、必読文献は受講者に配布します。	
参考書	「医療コンフリクトマネジメント～メディエーションの理論と技法」、「ADR－理論と実践」、「医療心理学の新展開」	
成績評価	平常点（80%）と筆記試験（20%）。講義で学んだことを後半の実習に反映させるために特に出席点（4 日とも出席すること）と授業に対する貢献度（質問やコメントを積極的にこなう）を重視します。	

### 医療における対人関係

高度に専門化された医療場面には、医療訴訟、医療紛争（コンフリクト）などの問題や、移植医療などの高度先進医療における問題、終末期医療におけるケアの問題など、多数の大きな問題が存在し、かつそれらは複数の人間関係を含む複雑な問題となっています。そして、医療従事者は、それらの問題に対応し、解決していかなければいけません。そこで、本講義では、問題に直面する医療者にとって、「直面する問題とは何か?」、「日々の問題・コンフリクト・葛藤に向き合うことについて」、そして、「その問題を認知する過程は?」、「問題や紛争・コンフリクトに対処する可能性とは?」について、対人関係論として、具体的なウィルヤスキルの学習を目指しています。